

〈はじめに〉

子どものころ、家にあった百科事典で、「未来」という項目のページを見るのが好きでした。児童用の辞典だったので、「未来」には数ページが割かれており、“2001年の社会”というイラスト画には、ビルの間を飛び交う自家用飛行機や自動運転の自動車、ボタンひとつで何でも片付いてしまう快適な家、そして宇宙服のようなコスチュームに身を包んだ、月(！)に住む「私たち」が描かれていました。◆さて、21世紀もだいぶ過ぎた今、あたりを見回すと、どうでしょう。相変わらず、洗濯物は自分で竿に干し、満員電車で詰め込まれながら仕事へと向かいます。“未来”とは、いつのときも、人間の心が作り出す「未来的」なイメージにすぎないのかも知れません。しかし、実際のところ、私たちの社会は、科学者やSF作家が思いもしなかった方向に、飛躍的な発達を遂げました。月へ行くよりも、もっと現実的な要請により生み出されたもの、それが“IT”と称される高度情報技術であり、またそれを可能とするパソコンです。とくに、パソコンは、人間の能力を拡大する、史上最強の「文房具」として、人の言葉や思考、そうしてこころの有り方までをも、大きく変えようとしています。◆今回、お話のテーマを、“パソコンを通じた学習”としたのも、自分自身が、その影響の大きさに、怖れに近い感情を抱いているためです。発達障害児の療育や生活に関しても、これまで実現できなかったような学習や作業が、パソコンを通して、どんどん可能になりつつあります。そのこと自体は、もちろん素晴らしいことだと思います。しかし、さまざまな道が開けた、ということは、どの道を進むべきか、という選択を迫られる、ということでもあります。子どもひとりひとりを高めていくためには、何を、どのように学ばせるのが最良なのか。また、社会全体を向上させて行くためには、どのような道筋が最良なのか。過去の時代には遭遇し得なかった難しい舵取りを、現代の私たちは、便利な生活と引き換えに、背負ってしまったように思います。それは、自分自身で解決がつくような問題では無論なく、このようなお話をすることを通して、少しでも多くの方に、よりよい方策を考えていただければと思っています。◆そしてもうひとつ。子どもの頃の“未来”には、かならず、人間と生活をともにする賢明なロボットが描かれていました。そのようなロボットも、やはり、まだ、現代の社会には実現していません。けれども、ロボットに関しては、以前とは異なったコンセプト(意義)のもとに、その研究と開発が着実に進みつつあるようです。子どものころから大好きだったロボットは、自分の中でも、いま、思いがけず、ことばやこころの学習を考える上で、とても大切な存在になりつつあります。人と人を結ぶ存在として、パソコンと、そしてロボットに対する考えも、お話しできればと思います。